

おでかけリハビリにおける 函館市と函館朝市協同組合連合会との連携



1

函館市保健福祉部高齢福祉課 主査 相澤 浩行

● 函館市の概要

行政区域面積	677.86Km ²
人口	262,519人
高齢者人口	88,829人（高齢化率 33.8%） ・前期 44,390人 ・後期 44,439人
要介護認定者数	19,332人（要介護認定率 21.8%） ・支1 3,652人 ・支2 2,743人 ・介1 3,932人 ・介2 2,853人 ・介3 2,196人 ・介4 2,031人 ・介5 1,925人
介護保険料月額	5,300円（～H29年度） 6,260円（H30～32年度）

※平成29年12月末時点



● 暮らしのサポーターについて

1 暮らしのサポーターとは？

高齢者の生活支援や介護予防の活動に取り組むボランティア。

1クール5日間のカリキュラムを全て受講し、サポーターとして函館市社会福祉協議会に登録することで、活動先の紹介や、自ら活動を立ち上げる際のアドバイスを受けることができる。なお、活動そのものはサポーターの主体性に委ねている。



2 カリキュラム

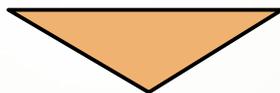
1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度と高齢者福祉 ・ボランティアポイント制度 ・サポーターの役割と心得 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動やデイサービスの見学や体験
2	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座 ・高齢者の特性とコミュニケーションの手法 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・研修振り返り, グループワーク ・修了式
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームヘルプサービスの役割 ・デイサービスの役割 ・介護予防体操の習得※ 	※	<ul style="list-style-type: none"> ・はこだて賛歌de若返り体操 <p>https://www.youtube.com/watch?v=SMT-dnmDe8s</p>

3 取組みの経過

住民主体の生活支援や介護予防の取組みを広げようにも、代表的な地縁組織である町内会や在宅福祉委員会（社協）の多くが、加入者不足・役員の後継者探しに苦慮。



まずはボランティアの志のある方を育てて、地域に繋ぐことから地道に始めることとし、生活支援体制整備事業の第1層協議体で、カリキュラムの内容・講師・見学先の協力体制などについて議論、今の形に。



サポーターを地域活動につなげるため、随時、サポーターに活動の場の情報を提供している中、おでかけリハビリの取組みを知る。**これはチャンス！**

おでかけリハビリが広がり、サポーターも協力できれば、介護予防が進む！

- ・ 介護予防活動の場が増える (函館朝市ひろば・商業施設など)
- ・ 利用者の交通手段がクリアされている (タクシー会社と連携済み)
- ・ 高齢者の社会参加が進む (利用者・サポーターの社会参加)
- ・ 利用者の交流相手が増える (利用者⇔サポーター・協力会社との交流)

4 函館朝市協同組合連合会との連携

行政サイドからすると非常にありがたい取組みです。
広げていくためにご協力できることはありませんか？

では、介護事業者や包括、市とまちづくりの
連携協定を結んでいる企業に連絡して、
一緒に説明会を開きましょう。
また、くらしのサポーターにも取組みを紹介する
ことで、協力者を増やせるかもしれません。

こちらも助かります。いつでもご相談ください。
商業ベースで取り組む意思を強く感じる。
ここは朝市さん達の気持ちを汲んで、
我々は口出しせず、側面支援に留まろう。

多くの方々に取組みを知ってほしいですね。
また、利用者の方が、車の乗り降りや買物をする際に、付き添いや話相手をしていただける
ボランティアさんがいると良いのですが・・・
協力いただける方をどう探したら良いでしょうか？

助かります。よろしくお願いします。
でも、ゆくゆく介護の制度の中には
収まりたくないな・・・
基本的には自由にやりたい。

函館市

朝市

行政は取組みの主体を尊重し、適度に協力することも大切です。

ご清聴ありがとうございました。

